

全国協議会 ニュース

2023年11月1日発行 第375号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和 (会長)
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

骨髄・さい帯血バンク議員連盟

笹川博義新会長にインタビュー

9月20日(水)、衆議院議員会館に、5月31日に就任した議連新会長笹川博義氏に全国協議会の梅田正造理事長が挨拶に伺い、骨髄バンクとボランティア活動の現状と課題を説明しました。笹川会長は、じっくりとお聞きくださいました。その要旨をインタビュー記事としてお届けします。



まさかわ ひろよし
笹川 博義
1966年8月生まれ
衆議院議員(4期)
自由民主党法務部会長
衆議院農林水産委員会 委員長
(インタビュー当時)
趣味：映画鑑賞、ガーデニング、
読書

血できなかった。身近な幸せを支える為にも健康であることは大事である。一日千秋の思いで適合ドナーを待っている人がいる。その思いに応えなければならない。そのためには客観的データが必要。

データを皆で共有し、整えた上で取り組まなければ改善することはできない」
「例えば、実際に移植患者が年間1,100人いるのであれば、ドナー助成制度に必要な財源は概算で計算できる。20,000円×7日×1,100人であればそれほど大きな金額ではない。在住者の自治体が負担するのであれば、都道府県別で濃淡があるのか？千葉が年間50人前後であれば、群馬はその半分くらいであろう。そういったデータを分析して改善する必要がある。ぜひ有効なデータを提供してもらいたい」

スポーツ大会との連携、骨髄バンクとの募金活動の協働

「スポーツ大会との連携はあるのか？日本骨髄バンクと全国協議会の相違は一般的には認識されているのか。寄付する先が不明になっている可能性がある。日本骨髄バンクと全国協議会が寄付金確保のための活動を協働で行うことはできないのか？集まった金額を、ルールを決めてシェアすれば良いのに、とも思う。この寄付はこのように使うという透明度が重要である。寄付金控除も重要なポイントである。スポーツ選手、著名人でドナーからの提

供を受けて復帰して活躍している方に尚一層協力をお願いする。公益団体における紺綬褒章申請制度のような表彰が受けられるなどの仕組みがあれば効果的。舞台装置をつくるのが重要」

ボランティア活動は自主性が大切

「皆さんボランティア団体の方々が、普及啓発やドナー登録募集活動などを熱心に行っていることは十分理解している。またボランティア活動にそれなりの資金が必要なこともわかる。例えば、こうした活動に補助金を付けることも出来ると思うが、そうすると単なる行政の下請け団体となってしまう、自由な発想や自主性がなくなり、結局は活力を失ってしまうケースも良く耳にする。よくよく考える必要もある」

患者・ドナーの声が大切

「健康なときは誰も気づかない。自分が病気になるか、愛する家族が病気になってはじめてことの重大性に気づく。患者・家族、ドナーなどの皆さんの声をまとめてほしい。議連としても一つひとつ改善を求めていきたい。やることはたくさんある。今後も定期的に情報交換を行いたい」

梅田理事長の説明

①若年層のドナー登録拡大が喫緊の課題。オンライン登録とスワブ検査の試験的導入は、来年度概算要求で計上されたが、引き続き後押しをお願いしたい。②骨髄バンクを介した移植を希望する患者のうち約6割しか移植を受けられていない。改善のためにはコーディネート期間の短縮が急務。③中小企業や自営業者はドナー休暇制度がないため、適合しても骨髄提供が難しい場合がある。そのため、ドナー助成制度が地方自治体で導入されており、ドナー及び企業を支援している。国も来年度概算要求で計上した。今後、実現するよう引き続き後押しをお願いしたい。

笹川会長のお話

客観的なデータ収集、情報共有が必要

「ドナー登録をした人が、そのことを認識し続けることが大切。自分もアイバンクに登録しており、また臓器移植にも同意している。臓器移植は免許証の裏面で意思表示できる。こうしたことも一つの考えだと思う。献血とドナー登録活動は連動していると認識している。先日、商工会議所の献血活動で30%の人間が健康上の理由により献

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(10月13日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2023年9月末現在)

	8月	9月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,671	3,225	548,691	939,930
患者登録者数	177	201	1,632	67,448
採取数	骨髄	50	78	25,988
	末梢血幹細胞	26	18	1,968
	合計	76	96	27,956

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■9月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/1,199人、献血併行型集団登録会/1,925人、集団登録会/8人、その他/93人

■9月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,317人/20代 90,018人/30代 135,454人
40代 215,275人/50代 103,627人

■9月の20歳未満の登録者 308人

注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

2023グリーンリボンランニングフェスティバルに参加

10月9日(月祝)に駒沢陸上競技場(東京都世田谷区)でグリーンリボンランニングフェスティバル(NPO日本移植者協議会等主催)が開催されました。移植医療への理解を深めるためのイベントです。参加された方から感想をいただきました。



『襷に思いを込めて』

皆様はじめまして、神奈川の会ドナー登録説明員1年生の高崎尚子と申します。【グリーンリボンランニングフェスティバル】に、応援チームのボランティアとして参加させて頂きました。

当日は朝からあいにくの雨で、秋とは思えないような肌寒い天気の中での

開催となりました。

ボランティアの仕事として、競技に参加された方たちに向けて啓発グッズの配布を行いました。可愛いキティちゃんのティッシュは大変好評でした。多くの人に、グッズをきっかけとして骨髄バンクの事を知ってもらえたら良いな、と思います。

荒天の為に規模を縮小された【バルーンセレモニー】の後は、いよいよ【42.195kmリレー】です。沢山の選手が競技場に集合し、ワクワクドキドキでスタートの時を見守りました。骨髄バンクからは3チームが出場。応援チームは、ランナーに「頑張れー」「ファ

イトー」と声援を送ります。骨髄バンクの襷をかけた選手には、一段と声を大きく「骨髄バンク、がんばれー」と思いを込めて声援を送りました。

ゴールの時は、多くのチームの走り終えた選手がゴール前の100m程をアンカーの選手と一緒に走り、喜び称え合いながらゴール。みんな、笑顔が溢れていて、感動的な瞬間でした。骨髄バンクチーム、完走おめでとうございます。万歳！走ることに挑戦する事、思いを込めた襷を繋ぐ事、骨髄バンクが目立つ黄色い襷をきっかけにして皆さんに骨髄バンクを応援してもらう事等々、沢山の様々な思いを持って参加された選手の皆さんに心から賞賛の意をお伝えしたいです。リレーの襷のように、骨髄バンクが多くの方に繋がり発展していくことを願っています。

(神奈川骨髄移植を考える会
高崎尚子)

地方の高齢患者さんの福音に クリーンルームのあるクリニック開院



8月28日(月)に開院された「清風会クリニック」をご紹介します。目を引くのはクリーンルームの窓の大きさです。そこからは草花や樹々が見え、窓いっぱいに見える空がありました。又、階段の段差の色はスタッフさん共々元気が出るように…と院長先生のこだわりがあるとお聞きし、胸が熱くなりました。11月19日(日)に開催する宮崎の会の記念事業での医療相談会では相談医としてお世話になります。

(みやざき骨髄バンク推進連絡会議
中村福代)

当院は、宮崎県都城市にあるクリニックです。もともとは泌尿器科、透析医療を行っていた有床診療所でしたが、医療法人の事業承継に伴い、私が

これまで研鑽を積んで参りました血液内科を新たに加えた形で、建物、クリニック名を刷新し、2023年8月末に新たな形で開院いたしました。

入院病床は19床あり、その内11床はクリーンルームを完備いたしております。また、通院での化学療法が可能となるよう、10床の外来化学療法室も備え、がん化学療法看護師、常勤薬剤師や、院内検査室など、血液診療をしっかり行うことが可能な施設となっております。このような施設でありますので、開院当初より、クリニックとしては珍しく、日本血液学会専門研修施設にも認定いただきました。

私自身は、長年、都市部での血液診療を行って参りましたが、地方にお住いの患者様が、通院されるご苦勞を目的の当りにして参りました。都城市は、近隣の都市部である宮崎市や鹿児島市まで、公共交通機関では1時間以上要する場所にあり、ちょうど両都市の間に位置しており、当院が都城市とその周辺の地域にお住いの患者様、特に高齢患者様の福音となると幸いです。

抗がん剤による治療を受けておられる患者様にとっては、病院で過ごす時

間は、時として暗澹たる時間でもあるかと思われます。我々のクリニックでは、少しでも患者様が快適に過ごせるよう、病棟をはじめとした施設内は温かい雰囲気の間づくりを心掛けました。クリニック二階には、屋外庭園を備えたテラスを造り、長期入院となれる患者様の一助となれるような試みも行っております。

当院は、透析患者様も多くおられますので、透析患者様の血液疾患の治療など、エビデンスも少ない特殊な分野の診療ではございますが、試行錯誤しながら、当院から何らかのエビデンスを発信できるよう努力いたして参りたいところです。

医療の均てん化が叫ばれる近年、クリーンルームを備えた入院施設や外来化学療法室をはじめとした、本格的な血液診療を地方で行う当院の試みは、地域医療としての血液診療の新たな提言となろうかと思っております。

まだまだ開院したてのクリニックではございますが、地域の患者様方の一助となれるよう、夢を持ちながら、スタッフ一同、診療に励んで参りたいと存じます。

(医療法人社団清風会
清風会クリニック院長 中野伸亮)

東京ビッグサイトで登録会 ～東京未来フェス 2023～



10月7日(土)8日(日)の2日間、東京ビッグサイトで～東京未来フェス2023～(主催:公益財団法人東京青年会議所)が開催されました。このイベントは未来を市民と共に考え社会課題を解決する次世代の担い手を創ることを目的としています。全国協議会も参加しましたのでその様子をお伝えします。

イベントでは未来の街づくりやデジタル技術などに関する講演が行われ、全国魅力発信マルシェとして全国から物産が集まり、また、大使館パビリオンでは世界旅行気分が味わえました。2日間で2万人を超える方が来場されました。

未来フェスのタイトルどおり、親子連れのお客さんが多く、ドローンを使ってのサッカーや段ボール迷路などを楽しむ笑い声が響いていました。

東京青年会議所の担当者から「ステージで何かやりませんか?」とお声掛けをいただき、全国協議会はブース出展と小ステージでのパフォーマンスに参加しました。

初日に設営した全国協議会のブース

ではハローキティのポケットティッシュとギフトオブライフを配っての啓発を行い、ブースを訪れた方の中からは「友人が骨髄移植を受けて日常生活を取り戻し、保存した精子で子どもを授かった。その友人は骨髄バンクを支援するため毎年寄付を募っていて自分も協力している」との話を聞かせてくださいました。

また、7日には献血併行型登録会も行われ、骨髄バンクを支援する東京の会のドナー登録説明員の皆さんが、献血に来られた方、ひとり一人に声をかけました。全国協議会のブースは日本赤十字社のブースと向かい合う形で設営され、全国協議会の参加者も会場内で献血を呼び掛けるなど協力し合っ

ての運営でしたが、会場設営の都合上、日赤のブースで受付を行い、その後会場外の献血バスまで献血して下さる方をご案内することになり、通常と違いお勝手が異なっていました。説明員の皆様も最初は戸惑っていましたが、献血者の人数が43人と少ない中で17人の方に登録いただくことができました。青年会議所のイベントのため、30歳代後半の方が大半でした。

ステージは初日の最終プログラム「誰かの命に火を灯そう!! 命をつなげるライブ!!」と題して、プロの歌手で全国協議会公式アンバサダーの山本雅也さん(写真左)とギターの清永アツヨシさん(写真右)にセッションで登壇いただきました。演奏の間には山本さんから全国協議会の紹介、骨髄バンクの必要性やドナー登録のお願いなど、歌と同じ熱量で骨髄バンクの普及にお力添えをいただきました。エンディングは骨髄バンクボランティアの応援ソング「人生をたどる物語」。力強くも優しい歌声が会場を包み込みました。今までとは違った形での啓発活動となりましたが、今後も山本さんをはじめとした発信力のある方々に協力いただき、さらに多くの皆様のご理解を得ていきたいと思ひます。

「いのちの輝き展」で 命について考えよう

全国協議会では、白血病等の病と闘いながらも「生きたい」という強い意志を絵やメッセージに込めた患者さんたちの作品をパネルにして貸し出しをしています。

広く社会の皆さまに白血病をはじめとする血液疾患や骨髄バンクの事について、考えていただく機会となるようご活用いただければ幸いです。

白血病と闘いつつ、わずか2年ほどの間に8,000枚の絵を残し、念願の骨髄移植を果たせぬまま、7歳9カ月で旅立った女の子の作品「あやちゃん展」、闘病中に病床で書き綴り苦痛を吐き出し、自らを励まし続けた若者の心のメッセージ「MAMOのメッセージ展」、5歳で骨髄移植を受けた女の子が治療や服薬をがんばって、がん

ばって小学1年生になったことをみんなに知ってほしくて描いた絵と詩「わたしががんばったよ展」をご用意しております。

お問合せ、お申込みは全国協議会事務局までお願いします。

骨髄バンクを介して移植を受けた患者さんは2年以内に2回までドナーさんに宛ててお手紙を出すことができます。(日本骨髄バンクが取り次ぎ、個人が特定できる内容は記載しないように案内されています。)それら移植を受けた患者さんがドナーさんに感謝などを伝えた手紙やドナーさんが提供した患者さんの体調を心配したり、励ましたりした手紙「患者とドナーのお手紙展」は、日本骨髄バンクから「患者さんとドナーさんが特定される可能性がある」と展示の中止要請があり、当協議会として今後の対応を検討中ですが、現在貸し出しを休止していますの

でご了承ください。対応がまとまり次第お知らせいたします。

全国協議会 インスタグラム始めました!

SNSのInstagram(インスタ)を新たに始めました。普及啓発の目的はもちろんですが、全国の加盟団体や、全国協議会に関わっていただいている皆さまとの交流の場としても活用したいと考えています。イベント情報や、基金のご案内から、全国のボランティアさんのお声やご当地情報まで、幅広い世代、多くの方に見ていただけるような内容で投稿を考えています。インスタをまだ知らない方も、一緒に始めてみませんか?

まずは、インスタをダウンロードし、右のQRコードからチェック&フォローをお願いします!



各地のたより 

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

山形

山形大小児科に“おもちゃやDVD・絵本”などプレゼント



今年も山形大学医学部附属病院小児科におもちゃやDVD・絵本などをプレゼントできました。コロナ感染のため自粛を余儀なくされた期間は、病棟の正面玄関で看護師長・保育士さんにプレゼントを受け取っていただきました。今年はコロナが5類になり、小児病棟のプレイルームで寄贈することが

できました。

2001年にサッカーチームの“モンテディオ山形”のご協力のもと、「モンテと一緒にクリスマス会 in 山形大学医学部附属病院小児科病棟」を開催しました。選手との交流会に参加できた入院中の子どもたちは目を輝かせ、自分たちのヒーローと楽しい時間を過ごしたのは言うまでもありません。この交流会は残念ながら2003年でとぎれてしまいましたが、モンテディオの選手の皆さんには小児科訪問や街頭キャンペーン&サイン会など、J1に昇格された年まで何度もご協力いただきました。改めて心より感謝申し上げます。

諸事情で中断していた「小児病棟へのプレゼントキャンペーン」を何とか復活させたいと努力しました。おかげさまで2010年から毎年、イオンモールの黄色いレシートキャンペーンで提供いただいた商品を寄贈させていただいています。

コロナで自粛を余儀なくされ病室訪問はかないませんでしたが、入院している子どもたちは家族とも会うことが制限されていると聞き、黄色いレシートキャンペーンでいただく商品は小児病棟からのリクエストを最優先にと考え、継続させていただきました。

長い入院生活、治療の副作用や毎日服用しなければならない大嫌いなお薬、そして治療後の退屈な毎日。そんな子どもたちに少しでも笑顔になってほしいと思ったのです。

この事業を継続できたのは、イオンモールで買い物をされたお客様が黄色いレシートを提供くださった温かいお気持ちの賜物です。心より感謝申し上げます。

山形大学附属病院から今年も感謝状を頂戴しました。小児科の子どもたちからお礼のメッセージも届きました。ありがとうございます。

(骨髄バンクを支援するやまがたの会
小野寺南波子)

大阪

堺市で骨髄移植医療講演会開催



10月1日(日)大阪府堺市にある「フェニーチェ堺」で堺市とNPO関西骨髄バンク推進協会共催で「骨髄移植について理解を深める医療講演会」が開催されました。「骨髄移植はどんな治療」と題し、日本赤十字社近畿ブロック血液センター副所長木村貴文氏が、移植で用いられるシクロホスファミド(抗悪性腫瘍免疫抑制剤)についてやハプロ移植の現状、ドナー登録における対面での説明の重要性を話されました。

移植小児患者のお父さん、たなかひろあき氏が、「骨髄移植を必要とした息子」と題し、骨髄ドナーを見つける活動を一生懸命したが見つからず、さい帯血移植をされたことを話されました。

次に、堺市職員柴田昌宏氏が「はじめの骨髄提供」と題し、提供に至るまでを話されました。勤務時間内に市役所で行われた献血併行型登録会で登録し5年後に適合通知が来た。親族に骨髄提供を受けた方がいたので家族の理解がありスムーズに提供できたこと。また政令指定都市堺市に移植認定病院が無いことを憂い、認定病院ができることを願っておられました。

さらに、「いただきたいのち骨髄移植体験」と題し、NPO法人関西骨髄

バンク推進協会の浅野祐子理事が発病から移植を受けるまでのお話、当時幼子2人を抱えての移植が大変だったことを話されました。骨髄移植は善意と感謝の医療だとも話されました。

堺市保健医療課からは、堺市が取り組む骨髄バンク事業の説明があり、関西骨髄バンク推進協会と連携協定を結び積極的に取り組み、ふるさと納税を活用してドナー支援活動をしている現状の報告がありました。

(山村詔一郎)

 **心からのご寄付に感謝申し上げます** ●9月21日～10月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般		●募金箱		●つながる募金	
菊水酒造株式会社	現金 500,000円	株式会社 クスリのアオキ	現金 898,378円	磯屋食堂	現金 18,017円
櫻井 成行	現金 10,000円	株式会社 北越ケーズ	現金 192,652円	キッチントレーラー TRAILARBURGER99	現金 9,760円
黒田 多喜男	現金 10,000円	株式会社 マルト商事	現金 69,369円	山本 雅也	現金 5,231円
匿名	現金 200,000円	株式会社 ナルックス	現金 52,780円	ハヤシ商事株式会社	現金 3,949円
匿名	現金 1,000円	医)有方歯科医院	現金 68,204円	グリーンリボンランニングフェス	現金 3,394円
●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	現金 5,000円	株式会社モンキーヒル	現金 15,300円		現金 4,910円
本田 真奈美	現金 1,000円				
日根 和美	現金 1,000円				
塩谷 泰人	現金 1,000円				

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。